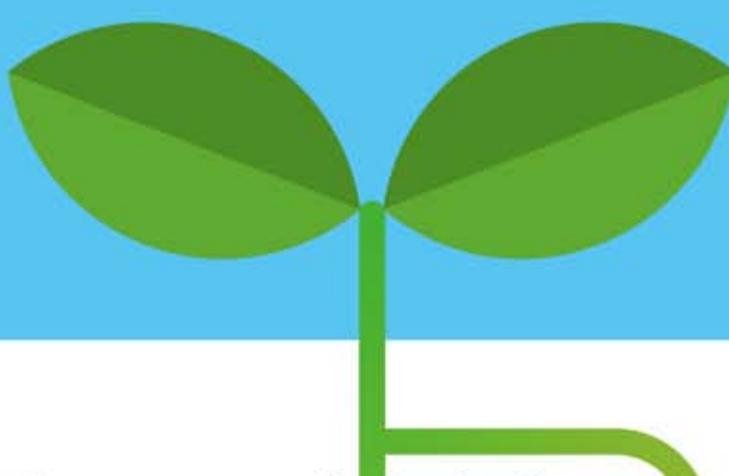


RITA

教育を変える
利他のDNAで
世界が変わる時代

vol.

17



フィロソフィで
学校を経営する試み

利他のDNAを
世界へ。
そして未来へ

R
RITSUMEIKAN

リタ
RITA
LABO

てみなさい」と言える度量を教員は持たなければなりません。

稻盛哲学で言えば、「動機善なりや。私心なかりしか」です。自分の本当にやりたいという動機がどこから来ているかと問うてみる。「それからの時代、自分たちがやろうとしていることがフィロソフィから外れていないかと自らに問いかけながら挑戦していく、そういう作業が必要になってきます。

金井 この研究会も各校のフィロソフィ案が完成し、一旦終了しています。先程、研究会 자체が参加教員の対話を促し、成長する場となったことを評価されていますが、今後の展開について、何かお考えでしょうか。

小笠 今回の研究会も各校のフィロソフィ案が完成し、一旦終了しています。先程、研究会 자체が参加教員の対話を促し、成長する場となったことを評価されていますが、今後の展開について、何かお考えですか。

小笠 今回完成したフィロソフィは、あくまでも今回集まったメンバーが作ったもので、また学校全体のものになっていないんです。各校でそれをたたき台しながら議論して、変化させていけばいいと思ってます。すべての教職員が議論に関わっていくうちに、その教員たちにもフィロソフィが入って、共通言語になっていくと思うのです。でも、あの先生は自分たちの考え方とは違うというふうに、対立が起つていくこともあるかもしれません。そこに、フィロソフィがあることにより、「私はこの考え方に基づいていて」という「やっている」ということが出来るので、対立するのではなく調和していくものになります。

3年間の学びと取り組み

研究会のテーマ

「未来の生き方をCreateする学校作り」

研究会の目的

活動期間は3年間とし、学習・取り組み内容を以下のように設定した。

2019年度「人生哲学」

人生方程式、6つの精進、働き方、心を高める。

京セラで教育部門を担い、稻盛経営哲学研究センターに出向されていた高津正紀教授。「新しい時代の学校研究会」を牽引する講師役を担ったが、2019年夏、北京大学出講中に「逝去されました。



立命館附属校のフィロソフィ経営への挑戦

2022年度
学校哲学研究会
Part 1

新しい時代の 学校経営 研究会

日時 2022年6月24日(金)
場所 立命館朱雀キャンパス

参加者
伊藤邦人
立命館小学校

白井有紀
立命館中学校・高等学校
(所在地から「長岡京」とも呼ぶ)

藤田翔平
立命館守山中学校・高等学校

酒井淳平
立命館宇治中学校・高等学校

小笠大道
立命館一貫教育部
稻盛経営哲学研究センター

川崎昭治
稻盛文宏(進行)
谷口悦子(記録)

3年間、
フィロソフィを
言語化してきた。
次はそれをどう
実践していくのか



研究センター
川崎昭治



最初に川崎先生から、立命館附属校がこの研究会で取り組んできました。立命館附属校の校長を歴任された、腰を据えて取り組んでみたいと言っていたのが、教育分野へのフィロソフィ経営の展開ということでした。立命館附属校5校の先生方に呼び掛けてこの研究会は2019年4月にスタートします。

最初に川崎先生から、立命館附属校がこの研究会で取り組んできました。立命館附属校の小笠先生とともに、高津先生を師として附属校5校の先生方に呼び掛けたこの研究会は2019年4月にスタートします。

最初に川崎先生から、立命館附属校がこの研究会で取り組んできました。立命館附属校の小笠先生とともに、高津先生を師として附属校5校の先生方に呼び掛けたこの研究会は2019年4月にスタートします。

うものをどう考えて、どうしていくのがよいのかということを整理し直すことができました。それが今日来ていているメンバーも含め20人を超える教員が3年にわたって、最初は高津さんの話を聞いたり、稻盛さんのビデオを見たりしながら、自分たち自身が考えている教育像というのは、正直まだおぼろげながらですが、つかみかけてきたところではないかな

と。それを言葉に表したらどうなるのかということを、言語化する作業を今回してきたところです。

次の課題としてはそれをどう実践していくのか。自分たちだけではなく、それを学校の中にどう広げていくのかというのを考えています。

今日は3年間ここで学んできたことによって実際に生徒や教員と対応する時に自分がどう変わって、現場にはどういうふうに新しい波が起こっているのかということを知りたいなと思っています。

金井 それでは、フィロソフィを各附属校で作り上げてきたプロセスについて、立命館小学校からお願いします。

五つの誓いを 踏まえて 全体、新任、 ミドルリーダーの それぞれの 先生を対象に



立命館小学校
伊藤邦人

立命館小学校では、「五つの誓い」というものを軸にして、教育活動

方」、「はじめて立命館小学校で働く先生方」、「ミドルリーダーの先生方」と対象別に3つ作っています。ミドルリーダー向けのフィロソフィを作ったあと、3月の終わりに新しい学年主任6名が集まつた時に、「こういったものを作つたので、こういう観点を大事にしながらひ学生をつくつていってほしい」と願いを込めてお話をしました。

1. 主体的に行動する
 - ① 人生の主人公は自分自身
 - ② 対等な対話で「正解」をアップデートする
2. 挑戦する
 - ① 失敗は挑戦した証
 - ② 失敗は未来志向で対処（原因論ではなく目的論）
3. 感謝する
 - ① 自他に誠実に
 - ② 感謝が良い議論を生む
4. 前向き
 - ① 未来を見る
 - ② ワクワク・ドキドキを大事に
 - ③ 比べるべきは過去の自分、未来の自分



数々のチャレンジを 支えてきた校風を 言語化した フィロソフィ

立命館守山中学校、
藤田翔平



例えば「率先垂範する」が一番に来ていますけれども、自分たちから仕事を引き受け、他の学年の先生のお手本となる、そういうところを大事にしてほしいと。それが2番の「信頼関係を築く」というところにながつてくると思います。特に5番の「常に創造的な仕事をする」につい

て、先ほど探究的な学びに力を入れてきているという話しもしましたけ

れども、各学年がどういうテーマで探究活動をしていくかというところに、今、話を進めています。

そういうところで、これから新しいものをつくつしていく空気が出来てきているかなと思いますし、それを

学年主任が意識しているのではないかなと思っています。

金井 ありがとうございます。最初に小学校全体の先生方、新任の先

生、ミドルリーダーの先生と、フィロソフィを丁寧に対象別に作られていました。それでは次に守山の藤田先生、よろしくお願ひいたします。

藤田 昨年度末にできたフィロソフィから特に大きくは変わらないです。そういう状態に至った経緯なども踏まえながらお話ししていくかと思います。

まず守山は長岡京だとか宇治、小学校と大きく異なるところが、公立高校が私立に変わったということですね。そういったこともあって、守山が出来た頃は「立命館色をつくらな」いうことがバックグラウンドにあったそうです。ということもあり、何かみんなの目にばーんと飛び込むような立命館らしい言葉を共通言語として一切持っていないのです。逆に言うと何にも觸られていない、といふことで、この15年間、守山は他

を行っています。「わたしたちは、かけがえのない一人ひとりの生命を大切にします」という生命の尊重が最初にあります。「言葉を大切にし、心をみがいていきます」「知りたいと言う気持ちを大切にし、あらゆることから学び続けます」と頼ります。本校は探究の学びに力を入れていますけれども、こういうところが軸になつくるところかなと思います。次いで、

「たくましく生きていくために必要な根っこをきたえます」とあり、小学校教育なので、この先に続く12年の一貫教育のスタートとして、そういう「根っこ」を培うことによって今後の一貫教育に生きてくるのではないかということです。最後に「身についた力を、進んで他の人に分かち伝えていきます」、自分の事だけではなく、それをどういうふうに貢献していくのかとあります。それを踏まえて、「立命館



philosophy 立命館小学校の フィロソフィ

～立命館小学校で働く 全ての先生方～

心を磨く

1. 感謝の気持ちをもつ
2. 信頼関係を築く
3. 高い目標をもつ
4. ベクトルを合わせる
5. 常に創造的な仕事をする
6. 開拓者であれ
7. 渦の中心になれ
8. 私心のない判断を行う
9. 大胆さと細心さを合わせもつ
10. 感謝の気持ちをもつ

正しい判断をする

8. 利他の心を判断基準にする

新しいことを成し遂げる

9. もうダメだというときが仕事のはじまり
10. 信念を貫く



困難に打ち勝つ

11. 見えてくるまで考え方抜く



人生を考える

12. 人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力
13. 夢を描く

の附属校に比べるとやりたいことが
やれきたのかなというところはあ
ります。

多分どの附属校よりも何かする
と決まつたら、ポンと始められる。
ICT教育がスタートした時もそう
でしたし、そういう意味では伝統
がないのが強いというところで、昔
さん一人ひとりが主体的に行動でき
る集団であつたなど自分たち自身、
身をもつて感じたところだったので、
それを一つ目の項目に置かせていました
だきました。ただ、この「主体的に」

行動する」というところにも、自分が行動するという部分もあれば、お互いが主体的に行動できるために、対話をしながら自分たちのスキルアップというのか、アップデートをしていくことが守山には非常に多いのかなと。何かを始める時に、それに長けた先生が生まれてくる。みなさん意外と素直に「わからないのですか、どうしたらいいですか」とお互いに聞き合える文化というのがあります。守山のいいところです。そういった文化が対教員だけではなくて、生徒に対しても出来つつあるかなと。そういうふたところで「対話」ということが大きな軸になつていて、感じて、項目に置かせてもらっています。

そして、15年間いろいろとチャレンジをしてきたことがあるので、「挑戦する」を置いています。守山のス

指せ、「文化祭」という目標が掲げられました。生徒と教員で協力した結果5年目、6年目ぐらいで達成したのですかね。その後、それまで行事を重視していたのですが、「これから時代の学校は『行事』だけではない。学力も必要だ。学力を身につけるためにはICTだ」ということで、ICT教育が始まつたり。その時のミッションによって常に守山は挑戦し続けました。

挑戦を続けていると、当然失敗も出てくると思うのです。その時に「挑戦する」のところに書いているのですが、読み上げます。「失敗は未来志向で対処する。原因論ではなく、目的論」「なんでこんなとしたの?」というお互いの叱責で終わるのではなくて、何がしたかったのか、どうやりたかったのか、そもそももののはなんだったのかということを、明確に対話できるような集団でありたい。それは生徒に対しても同じです。そういう気持ちでやってこれたのも守山の強みだと思ったので、書きました。

結局そうやってのびのびできたり自分たちが主体的に動けるのは、周りの協力があつたりするので、やっぱりそういう気持ちを忘れてはいけない」とことで、「感謝する」を書いています。

にかぶるところがあると思うのです。が、自分が学校を良くしていきたいと常に未来を見据えているのが理想の教員像など。そのためには自分がワクワクしたり、ドキドキしたりといったことを大切に、とりあえずやってみる。まわりもそれをやろうとしている人を否定することなく、チャレンジしてみようかというような雰囲になり得たらいと。この「前向き」という柱の最後に、「比べるべきは過去の自分、未來の自分」と書かせてもらっています。守山もどんどんプロフェッショナルな先生が増えてきて、「あの先生はすごいな、それに比べて自分なんか」と落ち込んだり、自分に自信がもてない先生も多いたりするのですが、大事なのは過去の自分よりもどれくらい成長できたのかです。1日1日背伸びして成長していくて、その自分の成長を実感することが大事だと思ったので置きました。

たら、このフィロソフィは未完成のまま公開して、みんなで作り上げていくのはどうかと考えていました。今、月に1回ぐらい現場の方と「守山ってどういう学校なのだろうか」を考える場を自主参加という形で設けて、そこで1年間かけて本当のフィロソフィを完成させていこうとしています。1回目は学園として「平和と民主主義」と言っていますが、守山とはどう合致するのかというテーマでした。まだ現場では2回しか集まれていませんが、なんとかこの1年で形にしていきたいと思っています。以上です。



立命館宇治中学校・高等学校の フィロソフィ

→ 宇嵩で働く教職員が大切にするフィロソフィー



「挑戦し続ける」を
軸に時代とともに
育っていく

酒井 宇治のフィロソフィの説明をした後で、その後現場はどうなつているか話ができたらと思います。

宇治のメンバーとしては、私、酒井と、熊谷、水口、高野という4人です。特徴的なのは、水口、高野は立命館宇治の初期の頃の卒業生なのです。熊谷は公立から宇治に来た教員です。私は長岡京の方に33歳までいましたので、正直、教員としての

土台は長岡京のものがあって、その後、横から見ていた宇治に途中から入って、今では宇治にいる方が長い、そういう立場です。

まず「忘れてはいけない原点・宇治のDNA」について、恐らくここのこところは初期の卒業生の高野、水口、そして横から見ていた私の宇治に対するイメージと合致するかなと思いします。我々4人で考えたこととして

は、宇治の核は「挑戦し続ける」というところにあるのではないかなどということです。それをもとにして3つの柱と具体的指針をこの図のようにまとめてさせていただきました。

このフィロソフィは2021年度に当時の中堅教員4名が作成したものです。「挑戦し続ける」という核の部分は今後宇治がどうなったとしても、守り続けていくものだと思い

フィロソフィをこれからどうしていくかということについてです。熊谷、高野の2名は、現在、中学2年の学年主任、副主任ですので、学年方針作成時にこのフィロソフィを意識しました。

フィロソフィを作ったあと、我々としては事例をあげたいなと思ったのです。例えば、具体的な指針で「チームの一員としての自覚」という項目があるのですが、「この先生のことはこうだったよね」とか、それぞれの教員の具体的な行動をもう少し集めることによって、より具体化したいと思っていたのです。

一方で管理職のメンバーが若干変わつてきましたので、管理職の方にこれをみんなでもつていって、どう

2022年度学校哲学研究会 Part 2

立命館附属校のフィロソフィ経営への挑戦

日時 2022年6月27日(月)
場所 立命館慶祥中学校・高等学校

参加者

立命館慶祥中学校・高等学校
山口太一
内山閣人
岩倉衣梨奈
立命館一貫教育部
小笠大道
川崎昭治
金井文宏

稻盛経営哲学研究センター
(進行)
谷口悦子
(記録)



フィロソフィは行動を立ち返るもの

立命館慶祥中学校・高等学校
内山閣人

内山閣人

考えています。

金井 フィロソフィを自分の行動指針とすることに、ある程度馴染まれましたか？

内山 個人的にはすごく馴染みました。先日のイベントでいろいろなフレギュラーが起り、今日の会議でも話題になりました。今日この研

究会もありますから改めてフィロソフィを見返すと、第10条に今の私たちにぴったり当てはまるようなことがしっかりと書かれていたりするわ

けです。こういう点で私にとって馴染むもので、「なるほど、確かにここで作られたフィロソフィは行動を振り返るときに立ち返るものである

金井 まずはフィロソフィとの関わりという個人的なことからお聞きしたいと思います。まず、内山先生からお願いします。

内山 私は今年から入試担当になりました。入試部というのは極めて仕事しやすい分掌なのではないか

金井 ということを最近よく感じています。フィロソフィと親和性がある意識して仕事しやすい分掌なのではないか

内山 金井主任は先生方の方向を判断する重要な立場だと思います。

金井 第10条といふのはどのような

内山 「目標を共有し、反省のある毎日を送る」です。床に就く時に一日を振り返つて反省することを前からやっていることもあります。第10条は個人的

金井 第10条といふのはどのよう

内山 「目標を共有し、反省のある毎日を送る」です。床に就く時に一日を振り返つて反省することを前からやっていることもあります。第10条は個人的

Philosophy

立命館慶祥中学校・高等学校の フィロソフィ

慶祥哲学 立命館慶祥働く者たちの羅針盤

- 「忘れてはいけない原点がある」
- 「世の中の原理原則と、学校の原点を判断基準に」
- 「1人1人がオーナーシップを持つ」
- 「私学は家族です」
- 「顧客第一主義に徹する 小善は大惡に似たり」
- 「仕事を通じて心を磨く」
- 「壮大な夢を描く フルスイングしないものはホームランが打てない」
- 「自分で考え、自分で創る」
- 「対話による合意形成を忘れない」
- 「目標を共有し、反省のある毎日を送る」
- 「心あるリーダーが組織を動かす」
- 「真心が發揮される職場」
- 「同僚を育てる」
- 「互いに尊敬しあう職場であり続ける」
- 「この場所で働くことが 幸せにつながる」

2022年度学校方針



創立当時に
立ち戻りつつ、
未来を考え
フィロソフィを作る

立命館慶祥中学校・
高等学校



金井 山口先生は今春から副校長をされていますが、学校全体を統括していくお立場で、学校経営にこのフィロソフィを導入しようとお考えですか？

山口 学校の経営方針を作るのが副校长の最初の仕事になります。経営方針の表紙は立命館大学慶祥高校と書かれていたまだ中学もない時の第一期生の入学式の写真でした。まさに原点を確認しようということから経営方針の作成が始まりました。議

京セラ、KDDI、JALグループをフィロソフィ経営で率い、
盛和塾塾長として中小企業経営者を育ててきた稻盛和夫氏。

経営者や社員のみなさんが稻盛哲学をどのように咀嚼し、

自分のものとしているのか、仕事での実践に基づいたお話を伺うこのシリーズ

今回の「新しい時代の学校教育研究会」を主宰した立命館のお二方に

「マイ・フィロソフィ」をお聞きしました

カラーで見える

マイ・フィロソフィ

立命館大学稻盛経営哲学研究センター研究員

川崎昭治さん



「宇宙の意志」と調和する心

マイ・フィロソフィ

学校法人立命館・育英教育院 副部長
小笠大道さん



「カラーで見える」、京セラの稻盛名譽会長のことばである。「同じ夢を追求し続けていく。その夢はどんどん鮮明で、細かいどこまでわかるようになり、ついにはカラーで見えるようになります。」それがビジョンです。そういう心理状態になった時、私は自分のビジョンが実現することがわかるのです。」と語っている。夢や目標をいつも実現できる人とできない人の違いは、その夢や目標をどれだけ真剣に追求し続けているか、生半可な追求ではなく、その夢が力で見えてるまで追及していくかどうかの差である。それは稻盛さんの次の言葉にも繋がっていく。「人間の能力は未来に向かって限りなく伸びて成長する」、「人間の能力は未来進行形で発展します」、「努力を重ね勉強をすれば必ず成功する」、「人間の能力は未開かれていくのだろ。まさにカラーで見えるまで悩み考え続けなければならぬのだ。

いく可能性を持つて「も述べている。思いを持ち追及を止めなければ、過吠えのような音にしか聞こえなかつた夢も、自らの能力の発展とともに白黒画像になりカラー映像、4K・8Kとより鮮明なものとなってくるに違いない。さらにこういう話もされていて、「素晴らしいチャンスは、ごく平凡な情景の中に隠れており」——しかし、それは強烈な目的意識を持った人の目にしか映らないものだ」と。結局、井口憲氏は、「人間とはいかな生き物か」を問う必要があると述べた。宇宙の中で生まれた人間という生物がどのような進化し、生成発展をしてきたのか。その人間が集まつた社会で、経営や教育が行われる。

フィロソフィはゴールではなく、方向性を示す羅針盤のようなものである。そしてその極みが京セラフィロソフィの「一番回」にある「宇宙の意志」と調和する心」と感じた。松下幸之助翁は、「宇宙に存在するすべてのものは、つねに生成し、たえず発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である」と述べ、生物学的人間教育論を提唱した九州大学名誉教授の故、井口憲氏は、「人間とはいかな生き物か」を問う必要があると述べた。宇宙の中で生まれた人間という生物がどのように進化し、生成発展をしてきたのか。その人間が集まつた社会で、経営や教育が行われる。

フィロソフィはゴールではなく、方向性を示す羅針盤のようなものである。そしてその極みが京セラフィロソフィの「一番回」にある「宇宙の意志」と調和する心」と感じた。松下幸之助翁は、「宇宙に存在するすべてのものは、つねに生成し、たえず発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である」と述べ、生物学的人間教育論を提唱した九州大学名誉教授の故、井口憲氏は、「人間とはいかな生き物か」を問う必要があると述べた。宇宙の中で生まれた人間という生物がどのように進化し、生成発展をしてきたのか。その人間が集まつた社会で、経営や教育が行われる。

編集後記 | 稲盛和夫氏のご逝去の報道を本号印刷の直前に知りました。急きよRITA編集会議を開き、本誌の冒頭に京都市立桃山中学校での稻盛氏の講演「君の思いは必ず実現する」(「RITA」13号から抜粋)を掲載しました。稻盛和夫名誉センター長は、常に日本の子どもたちに人生の未来を切り開く力を届けようと心を向けられていました。これまでの私たちへのご支援に心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

金井文宏

RITA LABO は、稻盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

利他ラボ
RITA LABO <http://www.ritalabo.jp>



お問い合わせ: contact@ritalabo.jp facebook rita labo 検索

発行:立命館大学 OIC総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター RITA LABO(リタラボ) 大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

編集人:金井文宏 制作:青木雅幸 編集・取材:谷口悦子 デザイン:坂本佳子、吉澤七海 印刷:アート印刷株式会社 2022年9月30日発行